

基本計画書

基		本		計		画			
事項	記入欄						備考		
計画の区分	研究科の専攻の設置								
設置者	学校法人 帝京科学大学								
大学の名称	帝京科学大学大学院 (The Graduate school of Teikyo University of Science)								
大学本部の位置	東京都足立区千住桜木二丁目2番1号								
大学の目的	本学は教育基本法に基づき、広く知識を授け人格の陶冶を図り、知的及び応用的能力を展開させると共に、深く専門の学術を教授・研究し、国際的視野に立って、日本国の発展に貢献できる有為な人材を養成することを目的とする。								
新設学部等の目的	外傷の予防・改善、運動による健康ケアの増進を柱として、人々の「健康づくり」の支援に貢献する観点から「QOLの向上」を推進するための高度な専門性を備えた指導的人材の育成を目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	医療科学研究科 〔Graduate School of Medical Science〕 柔道整復学健康ケア専攻 〔Master course of Judo Therapy Health Care〕	2年	3人	—人	6人	修士 (柔道整復学健康ケア) 【Master of Judo Therapy Health Care】	平32年4月 第1年次	東京都足立区千住桜木二丁目2番1号	
計			3	—	6			【基礎となる学部】 医療科学部 東京柔道整復学科 大学院設置基準 第2条の2の実施	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		医療科学研究科看護学専攻(修士課程) (3) (平成31年3月認可申請) 医療科学研究科総合リハビリテーション学専攻(博士課程) (2) (平成31年3月認可申請)							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	医療科学研究科 柔道整復学健康ケア専攻	講義	演習	実験・実習	計	30単位			
		15科目	8科目	0科目	23科目				
教員	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計		助手
新設分	医療科学研究科 看護学専攻(修士課程)		8 (8)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	9 (9)
	医療科学研究科 柔道整復学健康ケア専攻(修士課程)		9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	3 (3)
既設分	医療科学研究科 総合リハビリテーション学専攻(博士課程)		12 (11)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	14 (13)	0 (0)	0 (0)
	計		29 (28)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	39 (38)	0 (0)	— (—)
組織	理工学研究科 バイオサイエンス専攻(修士課程)		9 (9)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	0 (0)
	理工学研究科 環境マテリアル専攻(修士課程)		6 (6)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	0 (0)
既設分	理工学研究科 メディア情報システム専攻(修士課程)		7 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)
	理工学研究科 アニマルサイエンス専攻(修士課程)		12 (12)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	0 (0)
既設分	理工学研究科 先端科学技術専攻(博士後期課程)		26 (26)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	29 (29)	0 (0)	0 (0)
	医療科学研究科 総合リハビリテーション学専攻(修士課程)		10 (10)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	1 (1)
概要	総合教育センター		5 (5)	5 (5)	6 (6)	1 (1)	17 (17)	0 (0)	66 (66)
	教職センター		0 (0)	0 (0)	3 (3)	1 (1)	4 (4)	0 (0)	4 (4)
要	医学教育センター		6 (6)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	0 (0)
	計		81 (81)	21 (21)	15 (15)	2 (2)	119 (119)	0 (0)	— (—)
合計			110 (109)	31 (31)	15 (15)	2 (2)	158 (157)	0 (0)	— (—)

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計	大学全体				
	事 務 職 員		92 人 (92)	24 人 (24)	116 人 (116)					
	技 術 職 員		12 人 (12)	5 人 (5)	17 人 (17)					
	図 書 館 専 門 職 員		4 人 (4)	3 人 (3)	7 人 (7)					
	そ の 他 の 職 員		0 人 (0)	0 人 (0)	0 人 (0)					
計		108 人 (108)	32 人 (32)	140 人 (140)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	133,043㎡	0 ㎡	0 ㎡	133,043㎡					
	運 動 場 用 地	139,196㎡	0 ㎡	0 ㎡	139,196㎡					
	小 計	272,239㎡	0 ㎡	0 ㎡	272,239㎡					
	そ の 他	2,382㎡	0 ㎡	0 ㎡	2,382㎡					
合 計	274,621㎡	0 ㎡	0 ㎡	274,621㎡						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
		70,292.16㎡ (70,292.16㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	70,292.16㎡ (70,292.16㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	81室	29室	119室	7室 (補助職員 0人)	7室 (補助職員 0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数					
		医療科学研究科柔道整復学健康ケア専攻			12 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料	機械・器具	標本			
		冊	種	種	点	点	点			
	医療科学研究科 柔道整復学健康ケア専攻	25,371[722] (24,632[701])	131[5] (128[5])	69[69] (67[67])	1,323 (1,284)	619 (619)	77 (77)			
計	25,371[722] (24,632[701])	131[5] (128[5])	69[69] (67[67])	1,323 (1,284)	619 (619)	77 (77)				
図 書 館	面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数						
	4,893㎡	731		199,250						
体 育 館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要								
	4,928.19㎡	千住キャンパス：柔道場、トレーニングルーム / 東京西キャンパス：テニスコート、格技場、剣道場 / 山梨市キャンパス：柔道場								
経 費 積 び 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	「教員1人当り研究費等」について、研究科単位での算出不能なため、学部との合計
		教員1人当り研究費等		383千円	383千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
		共同研究費等		0千円	0千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
		図書購入費	680千円	10千円	10千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
	設備購入費	4,500千円	860千円	360千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
1,150千円	840千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円					
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常経費補助金、資産運用収入、雑収入 等							

大学の名称		帝京科学大学						開設年度	所在地	
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率				
生命環境学部							1.03			
生命科学科	4	100	3年次10	400	学士(理学)	1.02	平成20年度	山梨県上野原市八ツ沢字乙越2525番地	※平成29年度入学定員増(20人)	
自然環境学科	4	100	3年次5	410	学士(工学)	0.94	平成21年度	東京都足立区千住桜木二丁目2番1号		
アニマルサイエンス学科	4	290	3年次5	1170	学士(理学)	1.07	平成14年度	山梨県上野原市八ツ沢字乙越2525番地		
医療科学部							0.96			
理学療法学科	4	80	—	320	学士(理学療法)	1.03	平成19年度	山梨県上野原市八ツ沢字乙越2525番地		
作業療法学科	4	40	—	160	学士(作業療法)	0.79	平成20年度	山梨県上野原市八ツ沢字乙越2525番地		
柔道整復学科	4	30	—	120	学士(柔道整復)	0.92	平成21年度	山梨県上野原市八ツ沢字乙越2525番地		
東京理学療法学科	4	80	—	320	学士(理学療法)	1.07	平成22年度	山梨県山梨市上神内川1150-1		
東京柔道整復学科	4	90	—	360	学士(柔道整復)	1.07	平成22年度	東京都足立区千住桜木二丁目2番1号		
看護学科	4	80	—	320	学士(看護)	1.10	平成24年度	東京都足立区千住桜木二丁目2番1号		
医療福祉学科	4	50	3年次10	310	学士(医療福祉)	0.63	平成28年度	東京都足立区千住桜木二丁目2番1号	※平成31年度入学定員減(△30人)	
教育人間科学部						1.02			※平成29年度より名称変更(こども学部→教育人間科学部)	
こども学科	4	50	3年次5	210	学士(児童学)	0.82	平成20年度	山梨県上野原市八ツ沢字乙越2525番地		
児童教育学科	4	—	—	—	学士(児童学)	—	平成22年度	東京都足立区千住桜木二丁目2番1号	※平成28年度より学生募集停止(児童教育学科)	
幼児保育学科	4	100	—	400	学士(児童学)	0.98	平成28年度	東京都足立区千住桜木二丁目2番1号		
学校教育学科	4	130	—	430	学士(学校教育)	1.15	平成28年度	東京都足立区千住桜木二丁目2番1号	※平成31年度入学定員増(30)	
大学院										
理工学研究科										
バイオサイエンス専攻	2	15	—	30	修士(バイオサイエンス)	0.10	平成6年度	山梨県上野原市八ツ沢字乙越2525番地		
環境マテリアル専攻	2	15	—	30	修士(環境マテリアル)	0.19	平成6年度	山梨県上野原市八ツ沢字乙越2525番地		
メディア情報システム専攻	2	15	—	30	修士(メディア情報システム)	0.03	平成17年度	山梨県上野原市八ツ沢字乙越2525番地		
アニマルサイエンス専攻	2	15	—	30	修士(アニマルサイエンス)	0.49	平成17年度	山梨県上野原市八ツ沢字乙越2525番地		
先端科学技術専攻	3	8	—	24	博士(先端科学技術)	0.12	平成8年度	山梨県上野原市八ツ沢字乙越2525番地		
医療科学研究科										
総合リハビリテーション学専攻	2	3	—	6	修士(リハビリテーション)	1.50	平成30年度	東京都足立区千住桜木二丁目2番1号		
附属施設の概要	<p>名称：帝京山梨接骨院 住所：山梨県山梨市上神内川1150-1 平成22年11月完成 平成22年11月開設 平成24年4月実習開始 規模：147.19 m²</p> <p>名称：帝京千住接骨院 住所：東京都足立区千住元町33番1号 平成22年8月完成 平成23年3月開設 平成25年4月実習開始 規模：121.12 m²</p>									

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(医療科学研究科 柔道整復学健康ケア専攻 修士課程)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
基礎医療分野	身体構造学特論	1・2後		2		○			2						兼1 兼1 兼2	オムニバス	
	身体機能学特論	1・2前		2		○			1								
	病因論特論	1・2後		2		○			1								
	徒手療法学特論	1・2前		2		○											
	健康科学特論	1・2前		2		○			1								
	健康増進体力学特論	1・2後		2		○			1								
	健康心理学特論	1・2前		2		○											
	小計（7科目）	—	0	14	0	—			5	0	0	0	0	0		兼2	—
柔道整復学健康ケア分野	身体健康ケア特論	1・2前		2		○			2						兼1	オムニバス	
	身体健康ケア演習	1・2後		2			○		2								オムニバス
	臨床医療科学特論	1・2前		2		○			1								
	臨床医療科学演習	1・2後		2			○		1								
	健康ケア医療科学特論	1・2前		2		○			1	1							オムニバス
	健康ケア医療科学演習	1・2後		2			○		1	1							オムニバス
	運動器外傷学特論	1・2前	2			○			1								
	運動器外傷学演習	1・2後		2			○		1								
	応用実践整復医療学特論	1・2前		2		○											
	応用実践整復医療学演習	1・2後		2			○			1							
	運動分析学特論	1・2前		2		○				1							
	運動分析学演習	1・2後		2			○			1							
小計（12科目）	—	2	22	0	—			5	3	0	0	0	0	兼1	—		
特別研究	柔道整復学健康ケア特別研究法Ⅰ	1前	2			○			6	1					兼0	オムニバス	
	柔道整復学健康ケア特別研究法Ⅱ	1後	2			○			9	3							オムニバス
	特別研究Ⅰ	1通	4				○		9	3							
	特別研究Ⅱ	2通	4				○		9	3							
	小計（4科目）	—	12	0	0	—			9	3	0	0	0	0		兼0	—
合計（23科目）		—	14	36	0	—			9	3	0	0	0	0	兼3	—	
学位又は称号	修士(柔道整復学健康ケア)		学位又は学科の分野				保健衛生学関係 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)										
卒業要件及び履修方法							授業期間等										
基礎医療分野から6単位以上、柔道整復学健康ケア分野から必修2単位を含む12単位以上、特別研究12単位、合計30単位以上を修得し、かつ、必要な論文指導を受けた上で、本学大学院が行う修士論文の審査に合格すること。							1 学年の学期区分			2 学期							
							1 学期の授業期間			15 週							
							1 時限の授業時間			90 分							

授 業 科 目 の 概 要			
(医療科学研究科 柔道整復学健康ケア専攻 修士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎医療分野	身体構造学特論	<p>運動を通じた健康管理対策や運動器外傷の予防・改善対策を研究する上で、解剖学を修得することは必要不可欠である。特に筋の起始、停止、作用、支配神経を熟知することは、運動の指導や運動器外傷への施術を行う上で最も重要である。本講義では、基本的な解剖学を学修した上で、運動器・神経系の詳細な構造について最新の文献による研究論文から学修し、各領域の修士研究における基礎となる身体構造に関する高度な知識を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(3 杉山 渉 /6回) 解剖学概論、顔面、頭蓋、頸部、顎口腔の解剖と運動について教授する。</p> <p>(9 高田 雄三 /9回) 運動器系、内臓系、神経系および感覚器系の解剖学について教授する。</p>	オムニバス科目
基礎医療分野	身体機能学特論	<p>進化の歴史の中で作り上げられてきたヒトの特徴は二足直立歩行をすることである。そのために発達した身体の構造と機能について進化学、比較解剖学の観点から教授する。</p> <p>外傷障害は個人個人の職業歴、生活習慣、加齢変化、外傷歴、病歴から影響を受け様々な病態となる。例えば、外傷となる場合のひとつに構造と機能に合わない外力が逆に強くかかると外傷となる。また、壊れないほどの外力でも繰り返しかかると慢性障害となる。</p> <p>これらの外傷障害について、老若男女の特徴などを踏まえて病因を考察する中で、正常の構造と機能について学ぶことにより、障害の予防、競技力の向上、健康維持・増進を図ることができる。</p>	
基礎医療分野	病因論特論	<p>運動を通じた健康ケアの増進を視点にした高度専門職業人を育成する上で、神経・運動疾患についての知識を備える必要がある。パーキンソン病の病理学的研究内容を軸に、この類縁神経原性疾患に着目して、孤発性パーキンソン病、レビー小体型認知症、関連疾患であるアルツハイマー病、ピック病、筋萎縮性硬化症(ALS)、脊髄小脳変性症(フリードライヒ病)の運動機能の特徴を講義しつつ、将来さらに増加するであろう骨粗鬆症の病態のDNA分化とこれらの疾患に対する病理学的研究内容にも言及し、修士論文や将来の学究内容についても指導を行う。</p>	
基礎医療分野	徒手療法学特論	<p>柔道整復師が行う後療法の中に手技療法がある。物理療法や運動療法と共に重要な後療法である。近年、現代西洋医学に対して補完・代替医療で補っていく統合医療が先進国にて導入されるようになってきている。統合医療は治療を図るだけでなく疾病予防や健康維持・健康増進等も目的としている。この様な統合医療にはホメオパシーをはじめとしてさまざまなものがあるが、徒手療法もその一つである。その中の経験に基づく手技療法を中心として、伝統的な柔道整復術の手技療法を学び、基礎を身につける。さらに講義を通じて手技療法についての探究心を養い、西洋医学との比較研究及び世界の補完・代替医療、統合医療の現状を調査し、どのような統合医療が取り入れられているかを比較検討する。加えて人々の健康づくりに貢献するための手技療法についての方法論を自身で模索し、実践できる能力を養い、各領域研究への一助となることのできるよう教授する。</p>	
基礎医療分野	健康科学特論	<p>健康とスポーツ医学が関係する分野は広いが、中でも、運動器疾患に対する診断・治療・リハビリ・予防はその中心となる重要な分野といえる。本講義では、運動器疾患を扱う整形外科の領域から代表的な疾患を取り上げ、それらに対する診断と発症要因の追究に関する実際の理論と方法を学ぶ。さらに、予防に関する代表的な英語論文を読み、発表後に討論を行う。最近我が国では高齢社会がいつそう進むに伴い、加齢と関連する疾患が増えつつあり、それらに対する対策をスポーツ医学を通して理解することは、高齢者のADLなどの問題を考えるうえでも有益である。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（医療科学研究科 柔道整復学健康ケア専攻 修士課程）			
基礎医療分野	健康増進体力学特論	運動（スポーツ）が健康増進、体力向上、青少年への健全な成長が与える影響は非常に大きいといえる。しかし、年齢、成長や個人特性を考慮し、実施することが必要である。同時に、運動習慣（スポーツ習慣）を支え、発展させることのできる専門職が要求されている。本講義では、各スポーツの歴史や変遷、現状、並びにスポーツパフォーマンスを分析し、その特性を理解し、その向上のためのトレーニング方法、外傷障害の予防法を文献調査を行いながら修得する。また、スポーツ現場での調査研究法、スポーツが健康増進や健康寿命延伸に与える影響について、最新の研究手法を学び、主体的にその手法を深く理解できるよう教授する。加えて、各種目、競技レベルのアスリートのパフォーマンスや身体特性についても、最新の専門的知識や技術の修得に向けた教育を行う。	
基礎医療分野	健康心理学特論	超高齢社会における健康づくりは、単に平均寿命を伸ばすことではなく、自立した活動的で幸福な生活を営むことを可能にする健康寿命の延伸にある。健康心理学では、こころと身体の複雑な関係を社会という枠組みの中で全人的に理解することが求められている。そのため、より効率的な健康づくりの実践として、生物心理社会的モデルに関連する高い理解力が重要視される。本講義では、よりよく生きるためのQOLやウェルビーイングの理念に加え、科学的根拠に基づいた健康支援の方略とその実践について教授する。	
柔道整復学健康ケア分野	身体健康ケア特論	<p>本科目は、ヒトが生きていく上で受けるさまざまな刺激が、生体にどのような反応をもたらすのかということについて神経生理学的な側面から理解し、ヒトの健康の維持・増進やQOL向上のためのアプローチ方法として応用できることを目的とする。日常生活や運動中の刺激に対して、生体は意識、無意識下に反応し身体活動を変容させることがわかっている。刺激には身体の成熟を促す適刺激もあれば、健康を損なう有害刺激もある。本科目では、健康医療科学の枠組みの中で、臨床や運動（スポーツ）現場、社会生活の場面で遭遇する痛み刺激や、手技療法に代表される触圧覚刺激、香りや温度、精神負荷といった代表的な刺激が、ヒトの身体に影響を及ぼす機序について学修する。またそれらを基盤として、有害刺激によって起こる身体の不健康状態の解釈や、健康の維持・増進およびQOLを向上させる方法の考察へと発展させる。</p> <p>（オムニバス科目／全15回）</p> <p>（1 渡會 公治／5回） 体性感覚刺激と運動機能の適応について教授する。</p> <p>（8 二神 弘子／10回） 体性感覚刺激と自律機能の適応について教授する。</p>	オムニバス科目
柔道整復学健康ケア分野	身体健康ケア演習	<p>本科目は、身体健康ケア特論での学修を踏まえ、演習を通じて日常生活や運動中に受ける様々な刺激に対する生体の反応を理解し、それらを基盤としてヒトの健康の維持・増進やQOL向上を目的とした研究デザインを自ら構築、実践し、データを解析して考察できることを目的とする。演習は、ヒトを対象とした実験モデルを用いて、様々な刺激に対する生体の反応として自律神経系および内分泌系の変化を測定し評価を行う。得られたデータは統計学的に処理し、その意味についてディスカッションを通じて考察する。実験モデルとして用いる刺激は、痛み刺激、触圧覚刺激、香り刺激など、臨床や運動（スポーツ）現場、社会生活の場面で遭遇する頻度の高いものを採用する。刺激に対する生体反応を理解して、健康の維持・増進やQOL向上のために応用し、臨床や運動（スポーツ）現場、社会生活等において実践するための能力を養う。</p> <p>（オムニバス科目／全15回）</p> <p>（1 渡會 公治／5回） 運動機能の測定と解析について教授する。</p> <p>（8 二神 弘子／10回） 自律神経機能の測定と解析について教授する。</p>	オムニバス科目

授 業 科 目 の 概 要			
（医療科学研究科 柔道整復学健康ケア専攻 修士課程）			
柔道整復学健康ケア分野	臨床医療科学特論	本専攻での健康ケアの増進を考える上で運動器外傷以外の疾患についての最新知見を理解することは、運動を通じた健康管理支援を行うために必要な知識と考える。本特論では循環器疾患、呼吸器疾患、腎・泌尿器疾患、消化器疾患、神経疾患、内分泌代謝疾患、血液疾患、膠原病、運動器疾患、腫瘍性病変、感染症を取り上げる。疾患の概念、疫学、症状、検査、治療および予後について、画像診断を含めて解説する。関連する解剖・組織学や生理学の分野についても必要に応じて解説する。	
柔道整復学健康ケア分野	臨床医療科学演習	臨床医療科学特論と同様に循環器疾患、呼吸器疾患、腎・泌尿器疾患、消化器疾患、神経疾患、内分泌代謝疾患、血液疾患、膠原病、運動器疾患、感染症などを取り上げる。これらの疾患について演習問題を行う。臨床問題も取り上げる予定である。	
柔道整復学健康ケア分野	健康ケア医療科学特論	<p>本講義は、運動（スポーツ）の視点から科学的根拠を背景に教授する。具体的には、生活習慣病（運動、食生活、喫煙が密接に関与する疾患）の予防、あるいは治療にも運動の効果があるという観点から、以下の疾患を取り上げて、運動がどのように効果があるかを講義する。高血圧、脂質異常症、肥満、動脈硬化、虚血性心疾患、脳血管疾患、骨粗鬆症、糖尿病などを取り上げる。また運動（スポーツ）は、日々の健康管理、レクリエーションなど、さまざまな目的を持って行われている。近年では、生活習慣病をはじめとする疾病や介護予防、治療の手段として広く実施されており、人々が健康な生活を送るために運動（スポーツ）が果たす役割は大きい。しかし、間違った方法での運動（スポーツ）活動はケガの誘発や健康を害する要素も含んでおり、人々の健康や運動能力回復に関わる医療人にはスポーツ医学の知識を幅広く身につけておくことが求められている。そこで、運動（スポーツ）がヒトの身体各器官に及ぼす影響について学び、実際の健康維持・増進や改善のための運動（スポーツ活動）における事象を通してその理解を深める。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（2 久保田 俊一郎／9回） 運動による各疾患（高血圧、脂質異常症、肥満、動脈硬化、虚血性心疾患、脳血管疾患、骨粗鬆症、糖尿病、高尿酸血症、がん）への効果について教授する。</p> <p>（11 大石 徹／6回） 運動（スポーツ）による健康維持・増進や改善に対する運動方法を教授する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要		
（医療科学研究科 柔道整復学健康ケア専攻 修士課程）		
柔道整復学健康ケア分野	健康ケア医療科学演習	<p>本演習では、「健康ケア医療科学特論」を基礎に、健康・運動（スポーツ）に関する専門分野の中から学生が主体的に課題を決め、ディスカッションを通して問題を解決する能力やプレゼンテーション能力を身に付ける。健康については、健康維持あるいは健康増進の観点から運動の効用について問題演習を行う。具体的には、生活習慣病（高血圧、脂質異常症、肥満 動脈硬化 虚血性心疾患 脳血管疾患 骨粗鬆症 糖尿病など）の予防、あるいは治療にも運動の効果があるという観点から、運動がどのように効果があるかについて問題演習を行う。症例問題も提示して討論する。運動（スポーツ）については、実際の運動（スポーツ）活動における事象から健康増進の手法、外傷・障害予防のための運動手法について、トレーニング手法、フィジカルチェックなどの実践的なテーマを与え、自らが計画、調査、評価、実践するという研究者としての視点で問題解決に取り組むことで、自らの現場対応能力の育成を目的とする。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（2 久保田 俊一郎／9回） 健康について、健康維持あるいは健康増進の観点から運動の効用について問題演習を行う。具体的には、生活習慣病（高血圧、脂質異常症、肥満 動脈硬化 虚血性心疾患 脳血管疾患 骨粗鬆症 糖尿病など）の予防、あるいは治療にも運動の効果があるという観点から、運動がどのように効果があるかについて問題演習を行う。症例問題も提示して討論する。</p> <p>（11 大石 徹／6回） 実際の運動（スポーツ）活動における事象から健康増進の手法、外傷・障害予防のための運動手法について探求する。トレーニング手法、フィジカルチェックなどの実践的なテーマを与え、自らが計画、調査、評価、実践するという研究者としての視点で問題解決に取り組むことで、自らの現場対応能力（指導的役割を担えるための能力）の育成を目的とする。</p>
柔道整復学健康ケア分野	運動器外傷学特論	<p>運動器外傷はスポーツだけで発生するものではないが、スポーツ人口が増加するにつれて外傷の発生率も増加する傾向にある。</p> <p>本講義では、運動器外傷について、柔道整復師が施術可能である無血治療の方法、またその限界を把握し、柔道整復師が対応できる運動器外傷について探求する。また、指導的役割を担う高度な専門職業人を育成するために必要な、科学的根拠に裏付けられた最新の研究成果や研究手法を文献調査を通じて理解を深め、主体的に運動器外傷の発生要因を説明できる能力および研究手法を身に付けるための教育を行う。</p>
柔道整復学健康ケア分野	運動器外傷学演習	<p>運動器外傷の分野の中から、柔道整復師の無血療法について演習形式で授業を進める。また、外傷が起こる発生原因も理解し、身体全体として外傷を捉えることが出来るよう教授する。さらに、運動器外傷に対する最新の知識を修得し、運動器外傷となる可能性がある身体動作を理解するとともに、その動作を機能的に説明できる能力と最新の文献から得られた研究手法から、発生要因を考察できる能力を身に付け、論理的に説明できる能力を演習を通じて教授する。</p>
柔道整復学健康ケア分野	応用実践整復医療学特論	<p>身体の動作特性について、解剖学的な見解を含めて骨格から紐解いていくように解析し、人間の理想的な動きを追及する。身体の動きを理解することで、運動能力向上、健康維持・増進、運動器障害の予防、整復・施術による運動能力の改善などを成しえることができる。これらを目的とした理論を学び、この理論を生かすための実践を演習時に修得できるように練習する。実践内容については、全ての人間が同じ動作特性ではないため、年齢や性差、身長や体重などの条件に合わせた応用についても合わせて学ぶ。</p>

授 業 科 目 の 概 要		
（医療科学研究科 柔道整復学健康ケア専攻 修士課程）		
柔道整復学健康ケア分野	応用実践整復医療学演習	柔道整復術の最大特徴は、骨折や脱臼等に対して徒手整復を行うことであるが、柔道整復師が徒手で行う施術は総じて柔道整復徒手療法と位置付けられる。これには関節損傷や軟部組織損傷に対する整復や徒手療法も含まれる。本演習では、運動能力向上、健康維持・増進、運動器障害の予防、整復・施術による運動能力の改善を応用実践整復医療学特論で学んだ上で、徒手整復や徒手療法に関する最新の研究について紹介する。さらに、履修者が実験者・被験者になって実技演習を行う。演習を通して徒手療法が人体に及ぼす感覚や効果について理解を深める。
柔道整復学健康ケア分野	運動分析学特論	ヒトの二足歩行の原理や立位姿勢を理解し、馬などの歩様を例示しながら歩行分析および人の身体重心・姿勢に関する基本的知識の他、二次元・三次元動作分析手法、重心動揺計測および姿勢分析計測等の原理を理解するための講義を行う。二次元、三次元動作分析、筋電位計測、関節角度、加速度計測、重心動揺計測や姿勢分析計測等を通じてヒトの歩行動作、各種運動動作を分析するとともに、外傷等によって生じる特異的動作を把握し、外傷予防・改善対策における関節固定等（テーピングや固定材料など）による動作および立位時への重心動揺・姿勢への影響を例示し、研究課題への一助となりえる講義を行う。
柔道整復学健康ケア分野	運動分析学演習	運動器外傷の予防・改善法における動作への影響や運動（スポーツ）を通じた適切な動作手法について具体的な手法を取り上げ、検討する。テーピング等関節固定下での歩行や立位姿勢、スポーツ場面でみられるジャンプ動作（垂直跳び）や方向転換動作（反復横跳び）およびラジオ体操を例に各動作における二次元・三次元動作分析結果・筋電位や関節角度変化など各種計測結果から、動作・姿勢への影響を理解する。 以上のように、本演習では、運動器外傷の予防・改善法の具体的な内容について学修し、健康づくりの支援を行う視点から自身の研究方略を検討することを目的とする。
特別研究	柔道整復学健康ケア特別研究法 I	近年、柔道整復研究や運動器研究の進歩に伴い、科学的根拠、EBM(evidence based medicine)に基づいた研究が求められる。本専攻では運動（スポーツ）を通じての健康管理の支援、生活習慣病の運動による予防・改善対策や運動（スポーツ）によって生じた外傷の予防・改善対策を科学的根拠に基づいた基礎的・応用的な研究が求められる。そこで本講義では、研究を行うために必要な研究の意義と研究計画の立案、文献検索や統計の手法および研究倫理について理解を深める。 （オムニバス方式／全15回） （1 渡會 公治／2回） 研究倫理について例を挙げて紹介し、健康科学分野における統計手法について教授する。 （2 久保田 俊一郎／2回） 研究計画の立案についての考え方を紹介し、運動・生理学的統計手法について教授する。 （3 杉山 渉／2回） 研究とはなにか、基本的な研究への考え方について教授し、最終講義では、一連の研究手法を教授する。 （4 山内 禎祐／2回） 研究デザインおよび医学分野における統計手法について教授する。 （6 渡邊 利明／3回） 基礎研究・実験研究の進め方、臨床研究の進め方について例を挙げながら教授する。 （8 二神 弘子／2回） 研究課題設定の方法について紹介し、基本的な統計手法について教授する。 （12 行田 直人／2回） 文献の収集・読解について紹介し、発表、論文作成の方法について教授する。

オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要		
（医療科学研究科 柔道整復学健康ケア専攻 修士課程）		
特別研究	柔道整復学健康ケア 特別研究法Ⅱ	<p>健康やスポーツ医療研究および柔道整復研究を行うには、広い視野に立って幅広い知識（医療やスポーツ科学、柔道整復学等）に基づいた高度な研究能力とその基礎となる豊かな学識を養い多角的に事象を捉えることが求められる。本講義では、それらを扱う基本的な研究法を修得するために、本専攻の教員が専門とする分野における研究法をオムニバス形式で教授する。また、関連する海外の研究手法を英語論文を通じて理解させる。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（1 渡會 公治／1回） スポーツ外傷・障害の原因、要因の追究と予防の研究に関する研究内容について紹介を行う。</p> <p>（2 久保田 俊一郎／1回） 運動による心筋・骨格筋の再生への効果に関する研究内容について紹介を行う。</p> <p>（3 杉山 渉／4回） 柔道整復学健康ケア研究法の概要を紹介するとともに、各種スポーツにおけるカスタムメイド・マウスガード装着時の有用性についての研究に関する研究内容について紹介を行う。</p> <p>（4 山内 禎祐／1回） 画像診断（X線CT、MRI、血管造影）およびその応用に関する研究内容について紹介を行う。</p> <p>（5 有賀 雅史／1回） パフォーマンス向上のためのトレーニング理論と実践に関する研究内容について紹介を行う。</p> <p>（6 渡邊 利明／1回） パーキンソン病の神経病理学的研究および骨粗鬆症関連DNAの検索の神経病理学的研究に関する研究内容について紹介を行う。</p> <p>（7 市毛 雅之／1回） 日常生活動作やスポーツにおける外傷の発生機序・発生率・動作に関する研究内容について紹介を行う。</p> <p>（8 二神 弘子／1回） 体性感覚刺激による循環・内分泌反応の評価および健康ケアへの応用に関する研究について紹介を行う。</p> <p>（9 高田 雄三／1回） 分子生物学的視点による身体構造と機能解析に関する研究内容について紹介を行う。</p> <p>（10 市ヶ谷 武生／1回） 整復の原理とメカニズムー特に機能解剖学的な視点による研究に関する研究内容について紹介を行う。</p> <p>（11 大石 徹／1回） スポーツ活動におけるコンディションの評価、コンディションマネジメントに関する研究内容について紹介を行う。</p> <p>（12 行田 直人／1回） 痛みに対する徒手圧痛検査評価手法と痛み等の愁訴改善対策としての運動効果の動作分析学的研究に関する研究内容について紹介を行う。</p>

授 業 科 目 の 概 要		
（医療科学研究科 柔道整復学健康ケア専攻 修士課程）		
特別研究	特別研究 I	<p>本専攻科目の基礎医療分野、柔道整復学健康ケア分野の履修を通じて深めてきた、「健康づくり」の支援に関する問題意識を具体的な研究課題へと焦点化し、適切な研究方法に基づき得られた成果とその根拠と理論により、探究した成果を修士論文にまとめ、公開の場で発表するまでの一連の過程を指導する。特別研究 I では、各自の研究活動にて得られた研究データを解析し、考察を理論立てて構築する能力を身に付け、関連学会発表や学術論文として公表する能力を修得する。</p> <p>(1 渡會 公治) スポーツ外傷・障害の原因、要因の追究と予防の研究に関する研究指導を行う。</p> <p>(2 久保田 俊一郎) 運動による心筋・骨格筋の再生への効果に関する研究指導を行う。</p> <p>(3 杉山 渉) 各種スポーツにおけるカスタムメイド・マウスガード装着時の有用性に関する研究指導を行う。</p> <p>(4 山内 禎祐) 画像診断（X線CT、MRI、血管造影）およびその応用に関する研究指導を行う。</p> <p>(5 有賀 雅史) パフォーマンス向上のためのトレーニング理論と実践に関する研究指導を行う。</p> <p>(6 渡邊 利明) パーキンソン病の神経病理学的研究および骨粗鬆症関連DNAの検索の神経病理学的研究に関する研究指導を行う。</p> <p>(7 市毛 雅之) スポーツ・日常生活動作における外傷の発生機序・発生率・動作に関する研究指導を行う。</p> <p>(8 二神 弘子) 体性感覚刺激による生体反応の評価および体性感覚刺激によるストレス緩衝作用に関する研究指導を行う。</p> <p>(9 高田 雄三) 分子生物学的視点による身体構造と機能解析に関する研究内容について紹介を行う。</p> <p>(10 市ヶ谷 武生) 整復の原理とメカニズム—特に機能解剖学的な視点による研究に関する研究指導を行う。</p> <p>(11 大石 徹) スポーツ活動におけるコンディションの評価、コンディションマネジメントに関する研究指導を行う。</p> <p>(12 行田 直人) 痛みに対する徒手圧痛検査評価手法と痛み等の愁訴改善対策としての運動効果の動作分析学的研究に関する研究指導を行う。</p>

授 業 科 目 の 概 要		
（医療科学研究科 柔道整復学健康ケア専攻 修士課程）		
特別研究	特別研究Ⅱ	<p>本専攻科目の基礎医療分野、柔道整復学健康ケア分野の履修を通じて深めてきた、「健康づくり」の支援に関する問題意識を具体的な研究課題へと焦点化し、適切な研究方法に基づき得られた成果とその根拠と理論により探究した成果を修士論文にまとめ、公開の場で発表するまでの一連の過程を指導する。特別研究Ⅱでは、各自の研究活動にて得られた研究データを解析し、考察を理論立てて構築する能力を身に付け、関連学会発表や学術論文として公表する能力を修得する。</p> <p>(1 渡會 公治) スポーツ外傷・障害の原因、要因の追究と予防の研究に関する研究指導を行う。</p> <p>(2 久保田 俊一郎) 運動による心筋・骨格筋の再生への効果に関する研究指導を行う。</p> <p>(3 杉山 渉) 各種スポーツにおけるカスタムメイド・マウスガード装着時の有用性に関する研究指導を行う。</p> <p>(4 山内 禎祐) 画像診断（X線CT、MRI、血管造影）およびその応用に関する研究指導を行う。</p> <p>(5 有賀 雅史) パフォーマンス向上のためのトレーニング理論と実践に関する研究指導を行う。</p> <p>(6 渡邊 利明) パーキンソン病の神経病理学的研究および骨粗鬆症関連DNAの検索の神経病理学的研究に関する研究指導を行う。</p> <p>(7 市毛 雅之) スポーツ・日常生活動作における外傷の発生機序・発生率・動作に関する研究指導を行う。</p> <p>(8 二神 弘子) 体性感覚刺激による生体反応の評価および体性感覚刺激によるストレス緩衝作用に関する研究指導を行う。</p> <p>(9 高田 雄三) 分子生物学的視点による身体構造と機能解析に関する研究内容について紹介を行う。</p> <p>(10 市ヶ谷 武生) 整復の原理とメカニズム—特に機能解剖学的な視点による研究に関する研究指導を行う。</p> <p>(11 大石 徹) スポーツ活動におけるコンディションの評価、コンディションマネジメントに関する研究指導を行う。</p> <p>(12 行田 直人) 痛みに対する徒手圧痛検査評価手法と痛み等の愁訴改善対策としての運動効果の動作分析学的研究に関する研究指導を行う。</p>

（注）

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校に於ける学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

学校法人帝京科学大学 設置認可等に関する組織の移行表

平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		平成32年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
帝京科学大学				→	帝京科学大学				
生命環境学部 生命科学科	100	3年次	10	420	生命環境学部 生命科学科	100	3年次	10	420
アニマルサイエンス学科	290	3年次	5	1170	アニマルサイエンス学科	290	3年次	5	1170
自然環境学科	100	3年次	5	410	自然環境学科	100	3年次	5	410
医療科学部 理学療法学科	80			320	医療科学部 理学療法学科	80			320
作業療法学科	40			160	作業療法学科	40			160
柔道整復学科	30			120	柔道整復学科	30			120
東京理学療法学科	80			320	東京理学療法学科	80			320
東京柔道整復学科	90			360	東京柔道整復学科	90			360
看護学科	80			320	看護学科	80			320
医療福祉学科	50	3年次	10	220	医療福祉学科	50	3年次	10	220
教育人間科学部 こども学科	50	3年次	5	210	教育人間科学部 こども学科	50	3年次	5	210
幼児保育学科	100			400	幼児保育学科	100			400
学校教育学科	130			520	学校教育学科	130			520
小学校コース	40			160	小学校コース	40			160
中高理科コース	20			80	中高理科コース	20			80
中高保健体育コース	40			160	中高保健体育コース	40			160
国際英語コース	30			120	国際英語コース	30			120
計	1220		35	4950	計	1220		35	4950
帝京科学大学大学院				→	帝京科学大学大学院				
理工学研究科 ハイオサイエンス専攻(M)	15			30	理工学研究科 ハイオサイエンス専攻(M)	15			30
環境マテリアル専攻(M)	15			30	環境マテリアル専攻(M)	15			30
メディア情報システム専攻(M)	15			30	メディア情報システム専攻(M)	15			30
アニマルサイエンス専攻(M)	15			30	アニマルサイエンス専攻(M)	15			30
先端科学技術専攻(D)	8			24	先端科学技術専攻(D)	8			24
医療科学研究科 総合リハビリテーション学専攻(M)	3			6	医療科学研究科 総合リハビリテーション学専攻(M)	3			6
					看護学専攻(M)	3			6 専攻の設置(認可申請)
					柔道整復学健康ケア専攻(M)	3			6 専攻の設置(認可申請)
					総合リハビリテーション学専攻(D)	2			6 専攻の設置(認可申請)
計	71			150	計	79			168